

2020年8月30日(日)／説教者:名護良健

説教:「戦争と平和―敗戦から75年―」

聖書:ローマの信徒への手紙14:10～23

沖縄「慰霊の日」に続き、今朝は「全国慰霊の日」になります。教会暦では、2日が「平和主日」となります。あれから75年です。私は母親と疎開した大分県の旧吉野村でその日を迎えました。そこで昭和天皇の「終戦の詔勅」を近所の人たちと聞きました。国民学校3年生に進級する前でしたから意味は理解したわけではありませんでした。ただ村人たちは泣いていましたから事情は理解しましたが。

「詔勅」は戦争の責任と経緯の説明は一切ありません。そのことについて「戦艦大和の最後」の著者吉田満氏は語ります。特攻作戦に協力した戦中派としての思いがある。1.戦争協力行為 2.個人的生命が今も存在するのか、と。そのことで彼は生還後、しばらく茫然自失としていたという。これから生きて行くことが気重いように思われたと言うのです。その後、彼はカトリック教会で洗礼を受け、日本基督教団議長鈴木正久牧師の教会に転会、教団の「戦責告白」に関わる。

今朝の聖書は、「衣食足れば、即ち栄辱を知る」という言葉があるように、人間は自然に道徳心を生ずることはない。「神の国は、飲み食いではなく、聖霊によって与えられる義と平和と喜びなのです。」「ロマ 14:17」

われわれは人間として自らの衣食住のために他人を犠牲にするでしょうか。今の世界の歴史の現実を良く見てみましょう。良識ある人間はそんなことはしないでしょう。(名護良健)